

新成人のための 人生とお金の知恵

出発点

人生のデザインを 描きましょう！

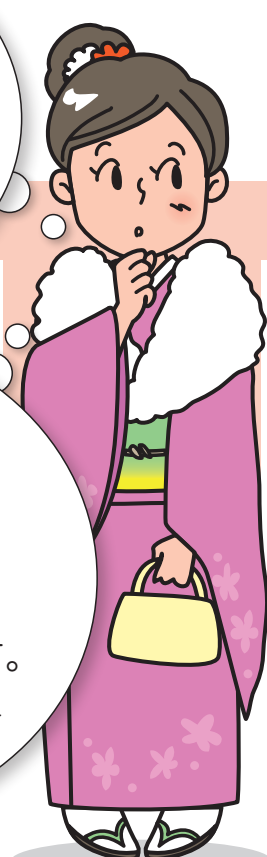
私は学校の
先生になりたい！

結婚して、
子どもは2人欲しい！

両親の近くで
くらしたい！

成人するまでに
私にかかったお金は、
月10万円としても
2千万円を超えるわ。

人生の3大費用は
「教育、住宅、老後」だって。
これだけでも1億円以上
かかるらしいよ。



僕はまずは就職かな。
「人生は30歳までに決まる」
とよく言われる。
「30歳までのプラン」を
作ってみようかな？

色々な夢や希望を
実現するためには、
もっとお金が
かかるんだろうね。

① 「支出<収入」 にしましょう！

- 自立するためには、「支出<収入」とすることが必要です。
- 「収入を得る」、「収入を増やす」ことができるよう、働く能力を高めましょう。



- 支出の見直しをしましょう。とくに4つの支出を見直しましょう。

「金利」がかかる支出」・・・クレジットカードの分割払いなど
「**固定的**な支出」……………スマホ料金、家賃、車、保険など
「**特別**な支出」……………お金のかかる趣味、レジャーなど
「**習慣**になった支出」・・・たばこ、酒、コーヒー店通いなど

- お金を貯めるためには、「**天引き貯金**」が効果的です！
給料をもらったら「天引き貯金」を始めましょう。



「最初に差し引いて
貯金してしまう」方が、
「毎月、余ったお金を貯金する」より
貯まりやすいだろうね。

毎月3万円貯めたかったら、
銀行に頼んで、
3万円を**毎月の手取り収入から
最初に差し引いて (=天引き)**
積立口座*に入れてもらうの。

給料が上がったら
天引き額も増やしたい。



* 給与振込口座に「第二口座」を指定する方法もありますが、「財形一般貯蓄」や「積立定期預金」を利用の方が効果的です。

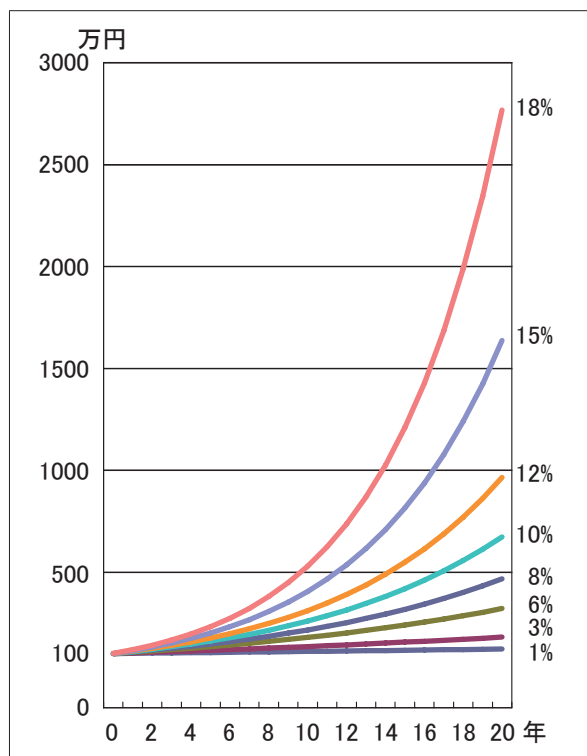
② 「複利の力」を知りましょう！

- お金には、**利子**（金利）がつきます。「利子にもまた利子がつく」ことを「**複利**」といいます。

- ・ 100 万円を年利 3% で銀行に 1 年預けると → 103 万円になる。
- ・ 103 万円を年利 3% でもう 1 年預けると → 106 万円ではなく、106 万 900 円 になる。
（理由）1 年目の利子 3 万円にも 2 年目に 3% の金利がつき、これが 900 円になる。

- **金利が高い**ほど、また**期間が長い**ほど、「**複利の力**」が大きく働きます。

複利の力



金利 1% ~ 18%

- ・ お金を「**運用する**」ときだけでなく、「**借りる**」ときも複利によって金額が増えることに注意！



- お金を**運用する**とき、**借りる**とき、「**複利の力**」を**意識**しましょう。

「72 の法則」を使いましょう！

- ・ お金が 2 倍になる年数、がすぐにわかる**便利な算式**です。
- ・ 「 $72 \div \text{金利}$ 」を計算すれば、元のお金が 2 倍になる年数が出てきます（概算です）。

$$72 \div \text{金利} \div \text{お金が 2 倍になる年数}$$

*ここでの「金利」は複利です（1年ごとに利子にも利子がつく、と想定）

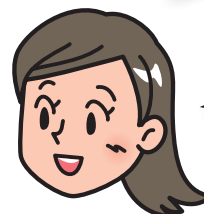
金利**3%**でお金を運用できたら、
「 $72 \div 3 = 24$ 」だから
24年で2倍にできる。
金利**18%**でお金を借りたら、
「 $72 \div 18 = 4$ 」だから
4年で2倍になってしまう。



③「お金を増やしたい」とき

- ①「仕事からの収入を増やす」のが一番です。
- ②「天引き貯金」は、お金が貯まりやすい方法です（前述）。
収入が増えたら、「天引き額」も増やしましょう。

(例) 手取り収入が25万円 → 天引き額 5万円
↑ ↑
手取り収入が20万円 → 天引き額 3万円



若者は、働いて
お金を稼ぐのが
基本でしょ。

頑張って働けば
収入が増える。
貯金も増える。

- ③ お金の運用は、**余裕資金**を作ったうえで！

- 生活費の最低3か月分(失業への備え)、できれば1年以上を貯め、**心の余裕**を確保しましょう。
そのうえで、お金の価値を「**守る**」こと(インフレが進むと預金の価値は通常低下します)、
将来の夢の実現や老後に備えてお金を「**増やす**」ことも考えていきましょう。

- ④「安全で、収益性の高い金融商品」は、**ありません!!**

預金 「安全性」高い「収益性」低い



株式 「安全性」低い「収益性」高い

- 「安全性」と「収益性」が、
ともに高い金融商品は存在しません。
- 「安全で、収益性の高い金融商品」は、
投資詐欺でよく使われる誘い文句です。

「世の中に、うまい話は
ない!」ってことね。
だまされないようにしましょう。



- ⑤「長期・分散・積立」投資を**低コスト**で行う、という運用方法を
知しましょう。

「長期」

- 長期間**、運用するほど、「**複利の力**」が大きく働きます（左頁のグラフ）。
- 短期間で大きく増やそうとして（例：半年で5割、1年で2倍）、投機的な取引をすると、大きな
リスクをとることになり、せっかく貯めたお金が大きく減ってしまう可能性も高まります。
- とくに老後資金は、長期的な視野に立ち、時間をかけて増やしていく、という姿勢が大切です。
「**72の法則**」を使って、お金の長期的な増え方を計算してみましょう。
－年平均3%で増やせれば、24年で約2倍、**48年**で約4倍です。
－もし年平均6%で増やせれば、12年で約2倍、24年で約4倍、**36年**で約8倍、**48年**で約
16倍です¹。

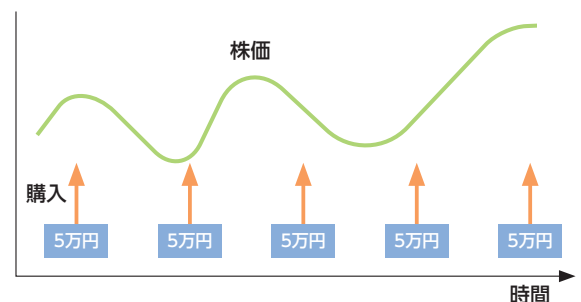
1 金融広報中央委員会『これであなたもひとり立ち』指導書の「ワーク12 人生にかかるお金、資産形成の視点」には、参考資料として**長期的な株価の動き**（日本70年、米国120年）も掲載しています。

「分散」

- **分散**は、有効な方法です。たとえば、**預金**（安全性が高く、収益性は低い）と**株式**（安全性が低く、収益性は高い）にお金を分散し、その割合を調整すれば、「**安全性**」と「**収益性**」のバランスを取り、自分の希望や性格に合ったものにできます。
- **海外**の債券や株式に分散するのも有効です（公的年金の積立金の運用でも、そうしています）。
- **株式**で運用する部分についても、保有銘柄を増やしていく（1 → 5 → 10 銘柄など）ことにより、**リスク**が低減します（価格の動きが打ち消し合うためです）。なお、老後資金形成のために「**長期（30 ～ 50 年）・分散**」運用する場合には、個別企業の株式よりも、株価全体（株価指数）に連動する**インデックスファンド**²を利用して国際分散投資するのが一般的です。

「積立」（定額投資）

- **積立投資**とは、給与から毎月一定額を投資していく方法などのことです。
- 給与からの**天引き**で積み立てると効果的です。
- 定期的に定額を投資すれば、株価が高いときには少なめ、安いときには多めの数量を買うことになり、平均購入価格が下がりやすくなります。
- 積立投資をコツコツと長期間続ければ、短期的な相場変動の影響を軽減するかたちで資産形成を行えます。長期的に価格が上昇していく優良な資産を選ぶことが大切です。



⑥ 資産形成を支援する **国の税優遇制度**を知りましょう。

| | 新しいNISA（2024年～） | | iDeCo（イデコ） |
|----------|--|--------------------------|---|
| 税の優遇 | 運用益が非課税になる | | 運用益が非課税になる 毎年の 所得税 や 住民税 が減る 受取時に支払う税金が減る |
| 対象層 | 18歳以上 | | 20歳以上 |
| 年間投資枠 | つみたて投資枠 120万円 | 成長投資枠 240万円 | 14.4万円～81.6万円 (働き方によって金額に違いがある) |
| 非課税保有限度額 | 1,800万円 ³ (再利用が可能 ⁴) うち1,200万円 | | — |
| 対象商品 | 長期の積立・分散投資に適した投資信託 (金融庁の基準を満たすもの) | 上場株式・投資信託等 (一部の商品を除く) | 投資信託 保険 定期預金など |
| 買い方 | 積立（毎月など） | 自由 | 積立（毎月、年1回、年2回など） |
| 受け取り | いつでも自由に引き出せる | | 60歳以降に、受け取りを開始する |

- NISA や iDeCo は、「**長期・分散・積立**」投資を**低コスト**で行うことに向くしくみです⁵。
- iDeCo は、老後資金の形成に向きます。60 歳までは引き出せません。
- NISA は、自由に引き出せます。老後資金のほか、子の教育資金などにも向きます。

2 インデックスファンドには、日本の株価（日経平均、東証株価指数）、米国の株価（S&P500ほか）、世界の株価に連動するものなどがあります。国際分散投資には、これらを利用するのが一般的です（NISAやiDeCoでも利用できます）。

3 つみたて投資枠だけで「1,800万円」の限度額を使い切ることもできます。成長投資枠の限度額は1,200万円です。

4 非課税保有限度額は、買付額の残高で管理されます。売却すると、買付残高が減少し、その分の枠を翌年以降に再利用できます。

5 成長投資枠も、「長期・分散・積立」投資を低コストで行うために利用することが可能です。

④「お金を借りる」前に

- ① 返せるかどうか、よく考えましょう。
- ② クレジットカードや消費者金融の金利は高いと知りましょう。

・クレジットカード・・・カードを使うことは、お金を借りることです。

▼金利の例

1回払い・・・なし

分割払い(12回)・・・年15%
リボ払い*・・・・年15%
キャッシング・・・・年18%

*毎月「一定額」を支払う方式など



・消費者金融・・・無担保・小口・短期・緊急の資金ニーズに柔軟に応じます。
その分、金利は高くなっています(年18%など。下表の上限金利で貸すのが通例です)。

(注意)若者に、消費者金融で強引に借金させて、マルチ商法や投資・副業関係の商品・サービス(投資ソフト、副業講座等)を買わせる手口が頻発しています。「借りればよい」と言われても、断りましょう!

- ③ お金を返せない場合、どうなるか知りましょう(奨学金を含む)。

・返済期限が来ているのにお金を返せない状態(延滞)が2～3か月以上続くと
⇒個人情報情報機関に延滞情報が登録され、クレジットカードや住宅ローンなどを利用できなくなります。延滞金利も発生します。奨学金の返済、スマホ本体代金の分割払いの延滞でも同じです。

- ④ 金利には上限があります。

| | |
|----------------|------|
| 100万円以上 | 年15% |
| 10万円以上 100万円未満 | 年18% |
| 10万円未満 | 年20% |



これを超える
金利は違法。
払う必要がないのよ。

(注意)「ヤミ金融」・・・「10日で1割(トイチ)」、「10日で5割(トゴ)」などの金利で貸します(年利では365%、1825%)。これは犯罪です。暴力的な取り立ても行われ、家族などにも被害が及びます。ヤミ金融には決して近づくべきではありません!

- ⑤「自己破産」についても知っておきましょう。

・どうしても借金を返せないときは⇒思い詰めた行動(自殺、犯罪など)に走ってはいけません。裁判所に申し立てれば、破産が宣告され、通常は借金がなくなります(免責)。これを自己破産といい、個人を再出発させるためのしくみです。
・自己破産すると、正規の業者から借りることはできなくなります。収入の範囲内に支出を抑える(「支出<収入」の原則に戻る)ことが必要となります。

⑤ リスクを管理しましょう！

① 人生のリスクを知り、管理していきましょう（2タイプのリスクがあり、対応も異なります）。

| 損失だけが発生させるリスク* | ⇔ | チャンスと一体のリスク** |
|--|---|--|
| けが 病気 死亡 事故 火災 自然災害 犯罪被害など | | 受験 就職 恋愛・結婚 出産 起業 住宅購入 資産運用など |
| 損失を回避すること、予防・軽減することをまず考えましょう。 損失に備え、 貯蓄 をしましょう。 必要に応じ、 保険 に入りましょう。 | | 自分の 夢 や 希望 をかなえるためには避けて通れません。しっかりと準備をして臨みましょう。 もし失敗した場合にダメージをどうコントロールするかも予め考えておきましょう。 |

* 下方リスクとも呼ばれます

** 上方・下方の両方向があるリスク



② 貯蓄と保険の特徴を知り、うまく使い分けましょう。

| 貯蓄 | ⇔ | 保険 |
|------------------------------|---|--|
| 何にでも使える 大きな損失はなかなかカバーできない | | 大きな損失もカバーできる（自動車事故など） 保険に入った損失にしか使えない |



⇒（例）・小さな損失には貯蓄で備え、大きな損失には保険で備える。

・子ができたら生命保険に入り、子が成長し、貯蓄も増えてくれば、保険を見直す。

③ 社会保険（政府が運営する公的な保険）について知りましょう。

社会保険には、**年金保険**、**医療保険**、**労災保険**、**雇用保険**等があり、“**国民皆年金（皆保険）**”です。

⇒民間保険に入る前に、まず**社会保険**でカバーされる内容を知りましょう。

社会保険、**貯蓄**などでカバーできない損失は？ ➡ 必要な範囲で、**民間保険**に入りましょう。

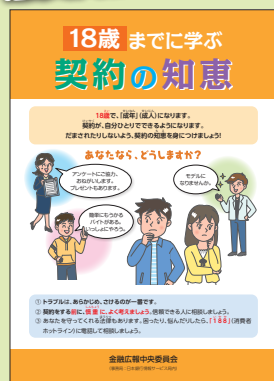
（例）医療費の自己負担は原則 3 割。さらにひと月の自己負担に上限があります。

（例）自動車事故の対人賠償額は、強制加入の自賠責保険だけでは通常足りません。

20 歳以上の人は、**国民年金**の保険料を納める義務があります。ただし、**学生**や、**20 歳から 50 歳未満の人**には、納付を猶予（先送り）してもらえる制度があります（所得が一定額以下の場合）。猶予中でも、けがや病気により障害が残れば、年金（障害基礎年金）を受けることができます。猶予してもらうためには、必ず申請する必要があります。

もっと学びたいとき～目的に応じてご利用ください

悪質商法対策に！



ひとり立ちに必要な知識を幅広く学べる！
「人生にかかるお金、資産形成の視点」の
ワークと指導書（解説）はとくにおすすめ。



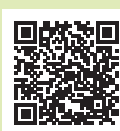
ワーク



指導書



大学の「金融リテラシー」の授業の副教材。解説が詳しい！



官庁や業界団体の夢のコラボ

専門家から学ぶ お金の基本

－ 初心者でも安心 －

講師はお金の
専門家



講座は全て
無料

FREE

1つの講座
15 min



受講者満足度

97.1%

受講者アンケート
(2023年6月末時点)

スマホOK

パソコンOK

マネビタではお金に関わる **6** 分野を学べます

- ① 金融と経済を学ぶ
- ② ライフプランを描く
- ③ お金を借りる
- ④ お金を増やす
- ⑤ リスクに備える
- ⑥ トラブルを避ける

▼受講はこちらから



NISA や iDeCo、企業型DC の
講座を拡充して
より充実した講座になりました

マネビタは金融教育に関わる専門家による講座です



マネビタおすすめポイントはこの3つ！

官庁や業界団体の
夢のコラボ！



中立公正な視点から
スペシャリストがわかりやすく
解説

お金の知恵が
無料で学べる！

FREE

お金に関する
基本的なテーマを網羅。
受講は全て無料

スキマ時間に
ピッタリ！



1本あたり10分～15分程度。
要点をギュッと詰め込んでいるから
わかりやすい、学びやすい！